

第 221 回 神戸大学都市安全研究センター RCUSS オープンゼミナール

2017 年 5 月 13 日（土）神戸市役所 4 号館（危機管理センター）



地区防災計画策定を巡る自治体と地域コミュニティの新しい関係づくりについて ～宝塚市中山台コミュニティエリア地区を事例として～

田中健一 兵庫県広域防災センター防災教育専門員

記録担当：神戸大学北後研究室 門谷和哉

東日本大震災の教訓から従来の防災計画「防災基本計画」、「地域防災計画」では広範囲、広域過ぎて実用性に欠けるということから新たに「地区防災計画」が制定された。

今回の報告では、この地区防災計画の推進のための、実際のモデル事業からの事例研究も含めた課題研究、改善策の提唱がなされた。

考えられる大まかな問題点として挙げられたのは、自治体の地区防災計画に対するスタンス、認識の違いなどの諸問題、そして防災訓練の在り方であった。具体的には自治体が抱える課題としては少子高齢化などによる人的資源不足・経済的問題・防災訓練などの活動のノウハウ不足・防災計画に対する住民の理解、関心の薄さが挙げられる。

これらの課題に対する解決策として、兵庫県では、阪神・淡路大震災の経験と教訓から、地域防災力を向上させることが喫緊の課題と考え、三木市にある兵庫県広域防災センターでは、2004 年からこのような観点から、地域防災の担い手である自主防災組織等のリーダーの育成を目的としたひょうご防災リーダー講座を開講、既に 2,249 名（H29 .4.1）が修了し、内防災士有資格者は 2,022 名。またそれに伴うコミュニティ再構築も必要と述べている。上記のことによってコミュニティの人的資源不足や防災訓練の際のノウハウ不足などの解決につながるとの事である。

また、現状の防災訓練の在り方にも問題点が見出されるとのことで、マンネリ化した展示型訓練からの脱却を必要としており、逆にいわゆる体験型訓練が効果的であるとし、地域住民に実際に避難所で生活してもらうなどのリアルな体験型訓練が提案された。

上記の新たな体験型訓練の一モデルとして、田中氏主導で行われた明石市立人丸小学校区での防災訓練を、災害が起きた瞬間の行動や、その後の対応をゲーム形式で学ぶという新しい形の防災訓練の概要が挙げられた。自衛隊や様々な企業からの協力・協賛を得て、実際の炊き出しや簡易ベッドなどで寝てみるなどのリアリティ重視の訓練や、防災演習ゲーム・生存確率ゲームなどのゲーム形式の訓練を行うなどである。

上記の訓練の目的としては行政依存による一般的防災訓練からの脱却、防災訓練メニューのマンネリ化による参加者減少に歯止めをかけるといった目的があり、実際この訓練に参加した地域住民によるアンケート結果も好印象な結果が多かった。

上記の方法で行った、田中氏が主導で行われた中山台コミュニティでの地区防災計画に基づいた避難訓練でも、参加者はこれまで以上に防災についての興味を示したことから、田中氏が提唱している新たな体験型訓練はある一定の結果を出しているとの事である。しかし、実際問題このような訓練がどのような地域でも実現可能かといわれると現状難しく、結局のところ地区防災計画の成功にはある一定の住民の協力、行政の協力が必要であるというのが総括であった。